

アース製薬株式会社
CSR報告書
2018



地球を、キモチいい家に。



アース製薬株式会社



Forest Stewardship Council® (森林管理協議会)で管理された森林からの原料を含む「FSC® 認証紙」を使用しています。



石油系溶剤を含まないNonVOCインキを使用し大気汚染の防止に配慮しています。



印刷時に有害な物質を含む浸し水が不要な「水なし印刷」を採用しています。

2018年6月発行

アース製薬株式会社

CSR報告書 2018

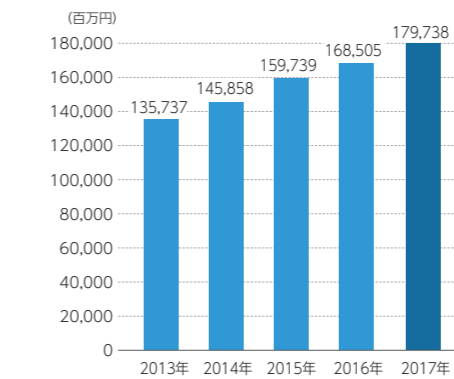
CONTENTS

01 目次・編集方針	13 アース製薬のCSR
02 会社概要	15 CSRマネジメントデータ
03 アース製薬の経営とCSR	17 環境報告
05 トップメッセージ	23 社会性報告
07 社会課題と社会のニーズをくみ取ったアース製品の歴史	31 ガバナンス
09 【特集1】～感染症予防に向けた虫ケア用品～	34 第三者意見
11 【特集2】～返品削減に向けて～	

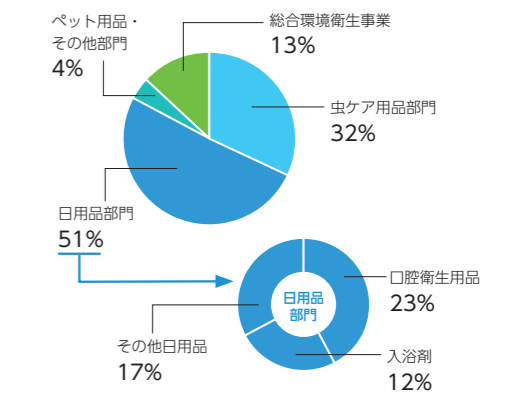
会社概要

名称 アース製薬株式会社
 東京証券取引所市場第一部
会社設立 1925年(大正14年) 8月26日
資本金 34億3,280万円
本社所在地 〒101-0048
 東京都千代田区神田司町二丁目12番地1
代表者 代表取締役社長 川端 克宜
社員数 連結：4,167名(2017年12月31日時点)
 単体：1,257名(2017年12月31日時点)
事業内容 医薬品、医薬部外品、医療用具、家庭用品などの製造販売並びに輸出入

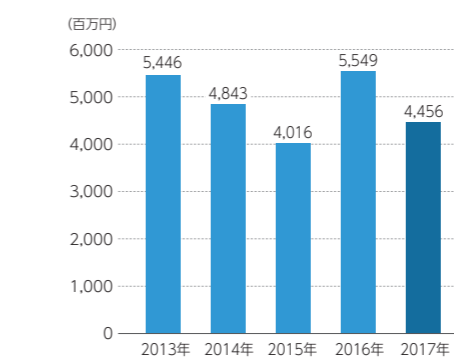
売上高(連結)



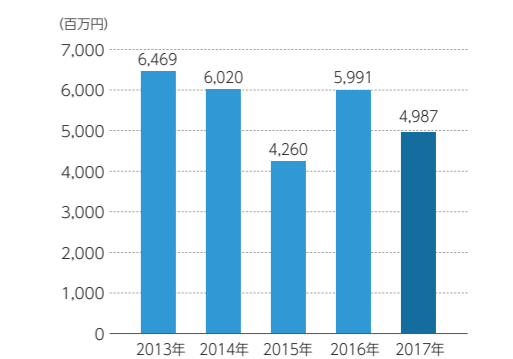
セグメント別売上高構成(2017年)



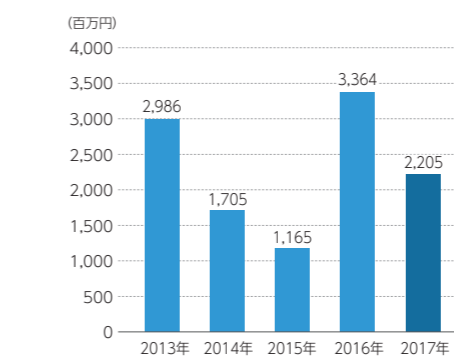
営業利益(連結)



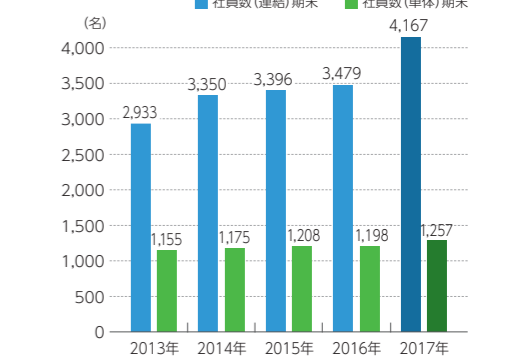
経常利益(連結)



親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



社員数



●編集方針

当社はステークホルダーの皆様とより深いコミュニケーションを取ることを目指し、2016年度にそれまで発行していた環境報告書に、社会や企業統治に関する報告を加えたCSR報告書を初めて発行しました。

CSR報告書としては2年目となる本冊子では、注力するテーマを設定し、SDGs(持続可能な開発目標)との関連付けを行いました。特集も注力するテーマに沿った内容としています。また、データの収集と開示も着実に進めており、冊子に反映しています。

この「CSR報告書2018」を通じて、アース製薬ならではのCSR活動を、多くのステークホルダーの皆様にご理解いただきたいと思います。

●対象範囲

アース製薬株式会社
(報告範囲はグループ全体ですが、データはアース製薬単体です)

●対象期間

2017年1月1日～
2017年12月31日

●発行時期

2018年6月

●参考にしたガイドラインなど

「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード(GRIスタンダード)」
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

●お問い合わせ先

アース製薬株式会社 経営統括部
TEL：03-5207-7458
FAX：03-5207-7484



アース製薬の経営とCSR

アース製薬の経営理念は、「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」ことです。
 経営理念を実現することがアース製薬のCSRそのものであり、
 人類共通の世界目標であるSDGsに貢献できると考え、経営の中で実践するよう努めています。

経営理念

経営理念の実現のために、社員が共有する行動様式として「アースポリシー」を、社員に求める価値観として「アースバリュー」を明確化しています。

【経営理念】
^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。 We act to live in harmony with the Earth.

【アースポリシー】
 お客様目線による市場創造 Creating a Market with customers
 熱意・創意・誠意 Passion・Innovation・Integrity
 すぐやる・必ずやる・最後までやる Momentum・Achievement

【アースバリュー】
 全員参画 One Earth
 コミュニケーション Open communication
 人がすべて Diversity

中期経営計画

2016年度～2020年度の中期経営計画の重点テーマとして、既存カテゴリーの発展・強化を基本としながら、さらなる成長に向けて、「海外展開の強化」、「グループシナジーの最大化」、「収益力の向上」を掲げています。中でも海外展開の強化を最重要課題として取り組んでいます。

注力するCSRテーマ

感染症	虫ケア用品を通じた虫媒感染症撲滅への貢献 (SDG 3.3)	
口腔衛生	オーラルケア用品の普及を通じた口腔衛生への貢献 (SDG 3)	
環境	廃棄物削減に向けた季節製品の返品削減 (SDG 12.5)	
	製品ライフサイクルを通じた環境・健康上適正な化学物質の管理 (SDG 12.4)	
労働環境	働きがいのある仕事と職場の創出 (SDG 8.5)	
	ダイバーシティの推進 (SDG 5.5/8.5)	

経営理念の実現

^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。

SDGsへの貢献

スローガン

人々の生命・生活(Life)に寄り添い、安全で快適な生活に貢献していく(Act)というお客様との約束を、「Act For Life」というスローガンに込めてコーポレートロゴに掲げています。

(グローバル版)

Act For Life

(日本版)

地球を、キモチいい家に。

CIが目指すもの

CIを社員全員が共有することによって、社員(製品)への信頼が企業価値を高め、企業の価値が社員(製品)への信頼を高めるという好循環を起し、社会とアース製薬の発展を目指します。

支援
 企業ブランドが、社員の後ろ盾となり、製品の購入を促進

貢献
 製品の使用経験や広告が、企業ブランドの価値を向上

認識している社会課題

保健衛生 (感染症)	温暖化に伴う虫の生息域拡大による感染症リスクの増大
	グローバル化に伴う人・モノの移動がもたらす疾病・感染症リスクの増大
保健衛生 (口腔)	口腔環境を起因とした疾病の存在
環境	大量生産・大量消費の経済社会における廃棄物の増加
	化学物質が人の健康や生態系に与える影響
労働環境	長時間労働による社員の生活の質低下
	ジェンダー間にある不平等の存在と平等な機会創出の必要性

CIに関する物語を一般公募

2017年に制定したCIへの理解と浸透のため、CIをテーマにした物語を一般公募し、応募作品を社内の各部署から選ばれた社員たちが審査しました。大賞作品を決める過程では、審査に関わった社員全員で当社の経営理念をあらためて考え、将来のありたい姿について議論するワークショップを開催しました。大賞に選ばれた「美知の通勤電車」は、アースが目指す社会との関わり方を表したものとして審査員から高い評価を得ました。

この活動は、押し付けるのではなく、一緒に作り上げるというアプローチでCIの浸透を図った企画でした。審査に関わった社員からは「会社を思う気持ちが深まった」「自分の周りにも会社の考えを伝えていきたい」といった声が聞かれ、大変盛り上がりました。

なお、この活動で選ばれた作品は短編映画化し2018年に当社HPにて公開しました。

～グループディスカッションテーマ～

- ・将来はどのような会社でありたいか？
- ・20～30年後の未来の理想像は？

ワークショップの様子

① 行動計画の作成
 ② アースの増大
 ③ 上への向上
 ④ 美知の通勤電車
 ⑤ アースの未来
 ⑥ アースの未来
 ⑦ アースの未来

アースのCSRとは、生命と暮らしに寄り添い、地球と共生すること



新CIでグローバルな社会課題の解決に向けた一体感を醸成

2017年は、年初に策定した新たなCI（コーポレートアイデンティティ）の浸透に努めた1年でした。自社の存在意義を含めて棚卸しをしたのは初めての経験でした。日本国内では社訓という形で自社のバリューやポリシーはある程度社員に伝わっていましたが、海外拠点では必ずしもそうではなかったため、新CIとして新たに掲げたことで、全社としての一体感が高まったと思います。グローバル展開を掲げる私たちアース製薬にとって、非常に大切なことでした。

グローバル展開のターゲットは、ASEAN（東南アジア諸国連合）と中国です。特に、子会社のあるタイは日本よりも衛生環境が悪く、時として虫を媒介とした感染症のまん延につながり命にも関わります。このため、私たちの主力商品である虫ケア用品を通じて、タイの衛生環境の課題解決を提案していきます。海外展開の際はその地域のお客様の課題解決をするため、製品開発・生産・販売・物流を自社で行う地域密着型のビジネスモデルを展開しています。虫ケア用品はいわゆる生活用品のカテゴリーになりますが、「命に関わる商品である」という誇りを持ち、事業を通じた社会課題の解決であるCSV的な展開を目指していきます。

アース製薬株式会社
代表取締役社長

川端克宜

「感染症対策」「環境」事業を通じて持続可能な未来に貢献

私たちのCSRとは、事業のど真ん中にあるものです。昨年度から「持続可能な開発目標（SDGs）」に向けた取り組みも始めましたが、SDGsで言及されている「感染症対策」や「環境」などは、私たちがまさに本業として取り組んでいることです。SDGsと事業との関わりを明文化することで、CSRと事業との関わりを社員に理解してもらって取り組んでもらえるようになってきたと思います。

その成果も出てきています。私たちが注力している「季節製品の返品削減」について、昨年度は返品率8.5%を達成しました。昨年は8月にかけてない天候不順に見舞われましたが、返品削減に向けた取り組みの精度が向上したおかげで、天候不順だったにもかかわらず返品率の低減に結び付けました。この経験は非常に自信になりました。返品率の低減は環境負荷の低減につながりますので、5%を目標に返品削減に向けた取り組みをさらに進めていきます。

私たちの本業はまさに社会課題の解決につながっていますが、CSR活動と利益のバランスを取りながら経営を進めていきます。特に気候変動は、私たちのSDGsへの貢献分野でもある感染症対策に大きく影響します。企業として利益を出していく必要がありますが、利益という結果のみを追求し過ぎることのないようにしなければなりません。

温室効果ガス排出量の削減に向けて私たちは、赤穂工場で太陽光発電を導入しています。コスト削減や災害時のBCP（事業継続計画）目的だけでなく、環境負荷の低減メリットをもっと打ち出せば、環境を意識した層への訴求力を高めるマーケティングにもつながりますので、再生可能エネルギーのさらなる導入に向けて引き続き取り組んでいきます。

社会の役に立っている仕事だと実感できる会社に

社内の人材の多様化（ダイバーシティ）について、女性の活躍という点では、海外子会社には女性役員がいるなど、若手や女性も活躍次第で評価される風土はあります。国内でも、売り場づくりと販売促進を専門的に支援する「EMAL（エマール）」という職種は全員女性です。

国レベルでは現在、長時間労働の是正を目指した働き方改革が推奨されています。労働時間の削減が一つの重要な要素であることは間違いありませんが、もっと大切なのは個人がいかに考えて仕事に主体的に取り組める土台を作るかということです。良い会社とは社会の役に立っている会社であるということを経営者に浸透させていくことで、社員のやりがいに結び付けていく。非財務的要素の向上が、結果として財務向上に結び付くという統合経営（経営へのCSRの統合）の流れも意識していきたいです。

こうした企業による一連の環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）への取り組みを評価するESG投資が注目されていて、良い流れだと思えます。ただ、CSRとはそのようなESG投資評価にかかわらずやるべきことで、評価を得るために取り組むものではないと思っています。

「2020の夏も、アースが守る。」そして、その先も社会に必要とされる会社へ

私たちはこのたび、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナーになりました。CSR、ブランディングの推進、さらには社員のモチベーション向上など、その狙いは多岐にわたります。世界最大のイベントでもあるオリンピック・パラリンピックという場で、虫ケア対策の重要性を訴えていきます。目指すのは「2020の夏も、アースが守る。」です。

私たちの事業は、SDGsとして国際社会が取り組むべきとされることと合致している部分が多いです。収益力のある企業を目指していくことで、社会に必要とされる会社にさらに近づける可能性があります。社会、地域と共生しながら、「良い会社」になっていく努力を今後も続けていきたいと思っています。



社会課題と社会のニーズをくみ取ったアース製品の歴史

アース製薬は、「人々に役立つ、使いやすい製品を」との思いをベースにユニークで愛される製品を生み出してきましたが、その背景には、社会課題があり、それらを製品で解決してきました。

1929 家庭用殺虫剤「アース」発売

社会課題 家庭の衛生環境が整っていない当時、家庭では、ハエや蚊などの害虫に悩まされていました。「蚊帳(かや)」や「蚊とり線香」などは普及していましたが、直接駆除するには噴霧タイプが必要と考え開発されました。製品名の「アース」には良質な国産製品を世界に広めたいという思いが込められています。



1964 粉末入浴剤「バスロマン」

アース製薬が前身の木村製薬所から社名を変更した年でもある当時の日本は高度経済成長期。各家庭に風呂が普及し始め、入浴剤の需要が高まってきた時代の中、「美容浴剤」と銘打ち発売されました。



1973 ゴキブリ捕獲器「ごきぶりホイホイ」発売

社会課題 当時のゴキブリ捕獲器は、「生け捕り式 再利用容器」で、消費者は「捕獲してゴキブリを殺す」という不快な手間を強いられました。昆虫をトリモチで捕っていたことをヒントに箱の形状や粘着力にこだわって開発し、箱ごと捨てる商品として消費者の不快を除きました。



*トリモチ：昆虫などを捕まえるために、木の枝などに塗る粘着質の物質。

1978 くん煙剤「アースレッド」発売

社会課題 ゴキブリ駆除に最も効果的な駆除剤だったくん煙剤は、煙が多過ぎて火事と間違われたり、部屋が汚れるなどの課題がありました。「アースレッド」シリーズはそういった課題を解決し、「マンションなどの集合住宅でも使用しやすく、部屋を汚さない」商品として販売しました。



1984 液体蚊とり「アースノーマット」発売

「蚊とり線香」や「蚊とりマット」は毎日取り換える作業がありました。お客様が手間をかけない蚊とりとして、30日間取り替えいらずというコンセプトで開発した蚊とり器が「アースノーマット」です。液体蚊とりという新しい市場を切り開きました。



1987 「モンダミン」発売

社会課題 1980年頃、海外ではすでに生活習慣となっていた洗口液を日本に導入しようと、日本人の味覚に合った洗口液として開発しました。当初はさわやかな息にするといったエチケット要素の強い製品でしたが、洗浄力にこだわり、お口を清潔にすることで「お口の健康を守る」製品としてリニューアルしたことにより、大ヒットしました。



1994 虫よけ剤「サラテクト」発売

社会課題 一般的に週休二日制が定着し始め、レジャー、特にアウトドアで過ごすことが多くなるとともに、快適に過ごす必需品として虫よけ剤市場は拡大しました。当時の虫よけ剤は肌にスプレーするとベタベタして使用感が悪かったので、制汗剤などに使われていたパウダーを配合して使用時の不快感を減らしました。また、パウダーの配合により汗にも強い忌避剤となり、効果時間も従来品より伸ばすことにもつながりました。



1996 ハエ蚊用エアゾール「アースジェット」発売

社会課題 90年代になると室内に侵入してくるハエや蚊が激減し、部屋全体の駆除というニーズよりもハエ蚊への直撃駆除というニーズの方が高くなりました。そのような中、ジェット噴射で「1秒でも早く、1匹でも多くハエ蚊を駆除したい人に」をコンセプトに「アースジェット」が開発されました。今ではハエ蚊用エアゾールのNO.1ブランドとなっています。



2007 コバエ捕獲器「コバエがホイホイ」発売

社会課題 衛生環境の向上に伴い、台所に発生するコバエ(ショウジョウバエなど)に対する害虫対策のニーズが高まりました。コバエの捕獲・殺虫商品は上市して反響が大きかったにもかかわらず、お客様からの改善のお声が多かったため、ハエトリポットの問題点を一から見直し、徹底的に改良したのが「コバエがホイホイ」です。



1997 ゴキブリ用エアゾール「ゴキジェットプロ」発売

1995年にジェット噴射を採用したゴキジェットを発売して高いシェアを獲得していました。1997年になって承認された超速効成分イミプロトリン配合の「ゴキジェットプロ」を発売し、目の前のゴキブリを秒速ノックダウンさせることが可能になりました。



2015 錠剤入浴剤「温泡 ONPO」発売

2014年にグループ化した白元アースの技術協力のもと、入浴剤市場の約35%を占める錠剤入浴剤にアース製薬が初参入。購入者の重視点である香りにこだわり、4種類の香りを詰め合わせました。強い発泡力ですばやく香りが広がります。



2016 消臭芳香剤「スッキーリ! Sukki-ri!」発売

吸い上げ方式の置き型消臭芳香剤に見られる終期の液残りや、香りが長続きしないというお客様の不満を解消した商品。最後の一滴まで消臭芳香効果を発揮します。



2017 衣類防虫ケア「natuvo」発売

近年、需要が高まるオーガニックに着目した商品で、天然成分100%のうち、無農薬栽培されたオーガニック成分を75%配合。肌が弱い人や薬剤に敏感な人の衣類、子ども服に対しても安心して使用できます。



感染症予防に向けた

虫ケア用品

アース製薬は、虫ケア用品を扱うメーカーの責任として、虫ケア用品の正しい知識と啓発に努め、世界の感染症患者が一人でも減るように貢献していきます。

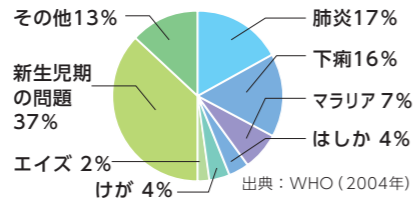


感染症予防に取り組む背景



世界最大の殺人生物ともいわれる蚊。マラリアだけでも世界保健機関(WHO)の推計によると、年間200万人以上の死亡者がいるとされています。

世界の5歳未満児の死亡原因



人間を殺す生物ランキング(世界)

- 1位 蚊……72万5,000人
 - 2位 人間……47万5,000人
 - 3位 ヘビ……5万人
 - 4位 犬……2万5,000人
- Copyright 2010 Gates Notes,LLC.

タイでの事業展開背景

アース製薬がタイに進出して38年。当初はなかなかアース製薬の殺虫剤を使ってもらえませんでした。タイにおける当時の平均賃金がまだ低かったことや、南国の特徴としてレストランなどの食べ物を扱うところでも虫がいても気にしないということもありました。また、国民の90%以上が仏教徒のため、殺生を嫌うという気質もありました。さらに、タイの言葉では、殺虫剤と農薬が同じ言葉であることから、誤って農薬を飲んで死者が出たというニュースが流れるたびに、殺虫剤に対するネガティブなイメージがついてしまうということもありました。

アース製薬は、殺虫剤は農薬とは違って家庭向けに安全に作られているということ、現地にいる約350名以上の営業担当者やプロモーション担当者がさまざまな形で啓発し、安心・安全な製品であることを訴え

続け、今ではタイにおける殺虫剤シェア11.5%、市場第2位のメーカーになりました。

近年、タイのみならずアジアではデング熱に罹患する人が増えています。タイ保健省によると、2017年は約53,000人が感染し、63人が亡くなりました。2016年に、タイの有名な若手俳優がデング熱で死亡するというショッキングなニュースが流れたこともあり、タイの国民にもデング熱が危険と認知されるようになってきました。殺虫剤に対するネガティブなイメージがあることで感染症にかかってしまっは本末転倒です。アース製薬は正しい知識を広めていくよう努めています。



VOICE タイのユーザー

「父の代から長年アースの蚊とり線香を使っています。アース製品はデング熱を媒介する蚊を退治してくれると思っています。アース製品は価格が少し高いものもありますが、高い安全性、日本のブランドであるという信頼感から選んでいます」



会社員
Mrs. Waraporn Ammaranan

VOICE タイのユーザー

「アース製品は日本のブランドであり信頼感があります。特に子どもにも安心して使っています。効き目も十分に蚊から身を守ることができ、価格もお手頃で助かっています」



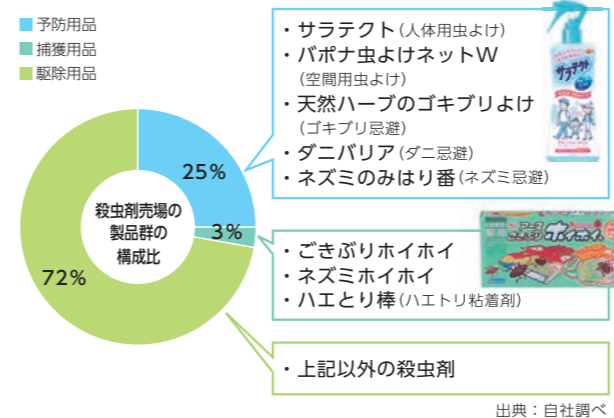
海軍勤務
Capt. Arnat Techarat

殺虫剤 から 虫ケア用品 へ

正しい感染症ケアにつなげるために

「殺虫剤」と呼ばれている商品は、人口減少が続く中であっても、地球温暖化の影響や外来生物の増加によって売上げが増えています。その中で消費者の「薬剤の毒性が高そう」というイメージが強いことも分かり

約28%が、名称『殺虫剤』にそぐわない商品



正しい使い方を浸透させるために

呼称変更にあたっては、商品の安全性が正しく伝わること、商品をイメージしやすく呼びやすいネーミングであること、感染症ケアにとって重要な商品群の一つであると表現できることを重視しました。これによって、「毒性が高そうで使いたくない」と考える消費者にも安心してお使いいただけるよう情報発信するとともに、呼称変更の背景やメリットなどを紹介したビデオを用いて、小売店など関係各所に対する啓発活動を進めています。



啓発ポスター

ました。実際の製品は極めて安全性が高いため、イメージによる誤解を払しょくして、蚊によるデング熱やジカ熱などへの正しい感染症ケアにつなげるための第一歩として、「虫ケア用品」への呼称変更を決めました。

消費者の殺虫剤イメージ調査結果

ネガティブなイメージ

- × 人体に有害………34%
- × 使うのが怖い………18%

ポジティブイメージ

- 身体にやさしい………2%
- 子どもにも安全な………3%

実態と乖離したネガティブなイメージがある。特に子ども・ペットと同居している世帯でのネガティブイメージが高い

出典：自社調べ

2020年にはすべての店頭を「虫ケア用品」売り場へ

虫ケア用品市場の約6割を占める当社は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(東京2020大会)のオフィシャルパートナーとなりました。『2020の夏も、アースが守る。』というスローガンのもと、正しい感染症ケアと製品の安全性の啓発を進めながら虫ケア用品への呼称変更を促し、業界全体として約100億円の市場規模拡大を目指しています。最終的には、東京2020大会が開かれる2020年までに小売店での店頭表示がすべて「虫ケア用品」となるよう、これからも地道な啓発活動を続けていきます。



東京2020オフィシャルパートナー
(虫ケア用品、家庭用肥料、培養土及び除草剤)

返品の削減に向けて

日用品メーカーにとって、返品削減はコスト抑制とともに環境負荷の軽減にもつながる重要な取り組みです。当社は2017年、虫ケア用品業界初の本格的な返品削減に着手し、廃棄物のますますの削減に取り組めます。

●返品は利益にも環境にもマイナス

事業活動を通じて常に生じてしまう返品。商品の撤去から仕分け、メーカーへの送り返しという一連の作業は、小売業様、代理店様、メーカー3者における手間とコストが生じる上に、廃棄に伴う環境負荷もかかります。返品削減の問題は長年の懸案でしたが、小売業様での売り場を確保するためにまずは商品を送り込み、販売シーズンが終わった後に返品していただくという業界の慣習がありました。虫ケア用品などの季節商品については、天候に左右されるため需要予測を立てる

ことが難しい分野でもあります。また、欠品による機会損失も避けなければなりません。当社としても、需要予測に基づいて返品削減に取り組んできましたが、目立った返品削減には至りませんでした。

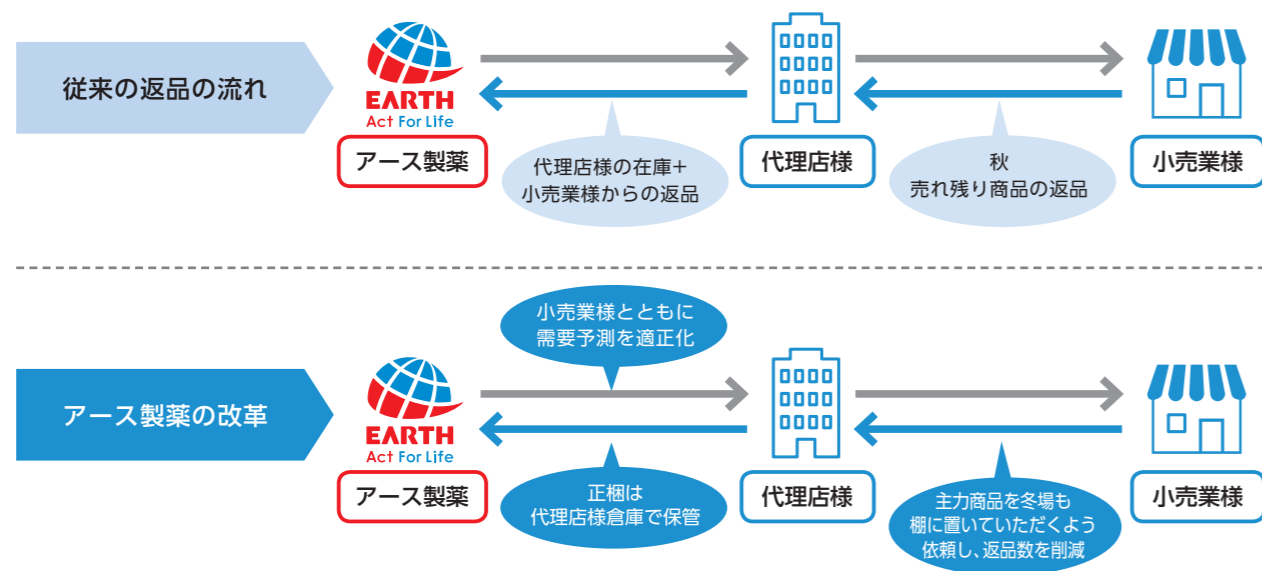


●小売業様、代理店様と協力して商慣行を改革

そこで今回、当社の商品が店頭で展開される商取引プロセスの中で、小売業様と代理店様の双方に、通年で売り上げのある代表的な虫ケア用品について、販売シーズン終了後も一定の需要があることを示す過去のデータをご確認いただき、従来販売シーズン終了後、小売業様、代理店様それぞれから当社へ返品いただいて

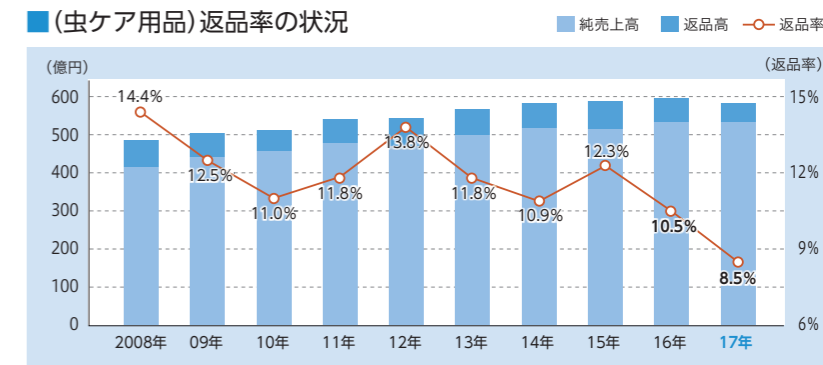
いた商品を、継続して店頭展開、倉庫保管いただくことになりました。

また、社内の取り組みを進めるため、営業部門の評価に際して、販売実績だけでなく返品削減の実績も評価に反映することで、意識改革を促しました。



●2017年の返品率は過去最低を達成

2017年の虫ケア用品の返品率は、前期比2.0ポイント減の8.5%と過去最低を達成。2017年は天候不順の影響で返品率が上がりやすい状況でしたが、約10億円分の商品の返品削減となりました。



●小売業様、代理店様ともにメリットの出る取り組みへ

取り組みを推進するに当たり、小売業様と代理店様に対して、営業担当幹部を含むスタッフで手分けをして、当社社長川端のビデオメッセージとともに直接ご説明させていただきました。小売業様と代理店様には、より的確な在庫管理を小売業様・代理店様・メーカー3社で行い、追加発注業務の削減・返品作業の削減をすることが収益向上につながると実感していただけたため、当社の取り組みにご協力いただけたのだと捉えています。

これからも、返品削減と欠品リスクとのバランスを取りながら、2020年には返品率を6.8%まで低減させる目標を掲げて、引き続き取り組みの精度を向上させてまいります。



説明会の様子

虫ケア用品返品率
2020年目標 **6.8%**

ご協力いただいている代理店様のお声

業界でのリーダーシップを発揮してほしい

業界では以前から「返品削減に取り組まないといけない」という声はありましたが、大きな取り組みはありませんでした。そんな中、アース製薬が先陣を切り、当社だけでなく、小売業様も巻き込んだ決め事の中に返品削減策が具体的に組み込まれ、アース製薬の営業の方と当社および小売店様との密なコミュニケーションにより適正な需要予測を立てることができるようになりました。返品削減はわたしたち代理店においても、「もったいない」という意識のもと、環境負荷の低減とともに、返品のための梱包や発送作業などのコストの低減につながっています。

今後はさらなる返品率の削減に向けて、アース製



適正な需要予測による商品陳列

業には虫ケア用品業界のトップ企業としてリーダーシップを発揮していただき、わたしたちは「返品しないことを前提としたオペレーション」の構築という流通改革に協力していきたいと考えています。また、このオペレーションが、日本の虫ケア用品業界そして、日用品業界に広がり日本全体の環境負荷低減につながることを期待しています。

CSR方針

アース製薬は2016年にCSR方針を策定しました。策定に当たっては、事業を推進する各部署の代表メンバーが集まり、アースグループらしいCSRとは何かについて議論を重ね、作り上げていきました。この方針をもとに、持続可能な事業の実現に向けた取り組みを推進していくことを社内外に示していきます。

CSR方針

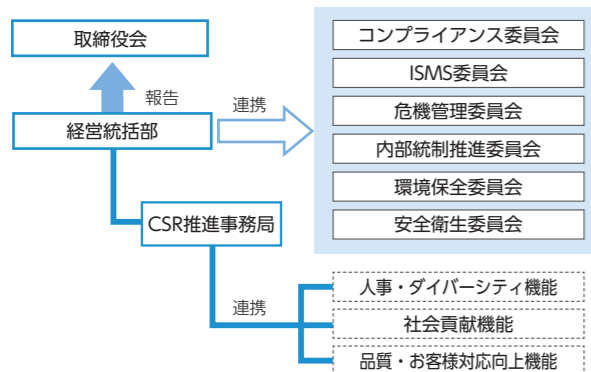
アース製薬(グループ)は、安全で快適な暮らしの提供を通じた自社と社会のサステナビリティの実現に向けて、あらゆるステークホルダーの立場や目線を尊重し、積極的に対話を行いながら、全社員が参画して真摯に取り組めます。

CSR推進体制

アース製薬は、CSR方針のもと、環境、社会、ガバナンスの3分野を俯瞰し、CSR活動を効果的かつ円滑に推進していくため、経営統括部内に「CSR推進事務局」を発足させました。これまで経営統括部と各委員会が連携して行ってきた活動に加えて、「人事・ダイバーシティ機能」「社会貢献機能」「品質・お客様対応向上機能」も推進するため、各部門との対話を行っています。活動内容を社内にも共有するほか、活動計画や目標のモニタリングを行っています。

CSR推進事務局ではCSR報告書の作成も行っており、ステークホルダーの期待を踏まえた適切な情報発信に取り組んでいます。

CSR推進体制図

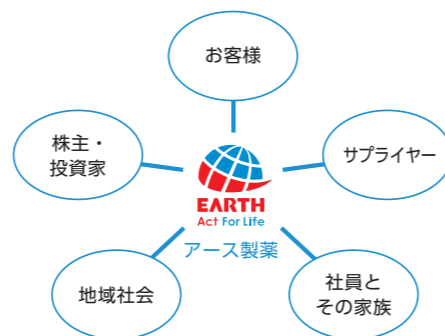


アース製薬のステークホルダー

アース製薬は、「お客様」「サプライヤー」「社員とその家族」「株主・投資家」「地域社会」など、さまざまなステークホルダーの皆様に支えられて事業活動を行っています。スローガンである「地球を、キモチいい家に。」の実践には、各ステークホルダーとのコミュニケーションが重要であると考えており、一方的な情報発信ではなく対話ができる環境づくりを目指しています。

“アースポリシー”に示す、「お客様目線」を第一としたものづくりと同じように、ステークホルダーとの対話を大切にし、社会とともに発展していける企業でありたいと考えています。

アース製薬のステークホルダー



CSRの社内浸透

アース製薬では社員のCSR理解の促進を目的として、社員向けにCSR報告書を読む会と説明会を実施しています。2017年は本社、赤穂事業所、全国の支店、EMAL*全体会議の場で説明会を行い、のべ770名が出席しました。社員自身がアース製薬のCSR活動を考える場になっています。説明会後はアンケートを実施し、理解度や要望の把握をしています。今後は事業に関連したテーマを決めてワークショップを開催するなど、内容を充実させていきます。

*EMAL(エマール)：Earth Merchandising Action Ladyの略。お客様目線を重視した販売促進専門部隊。



説明会(本社)

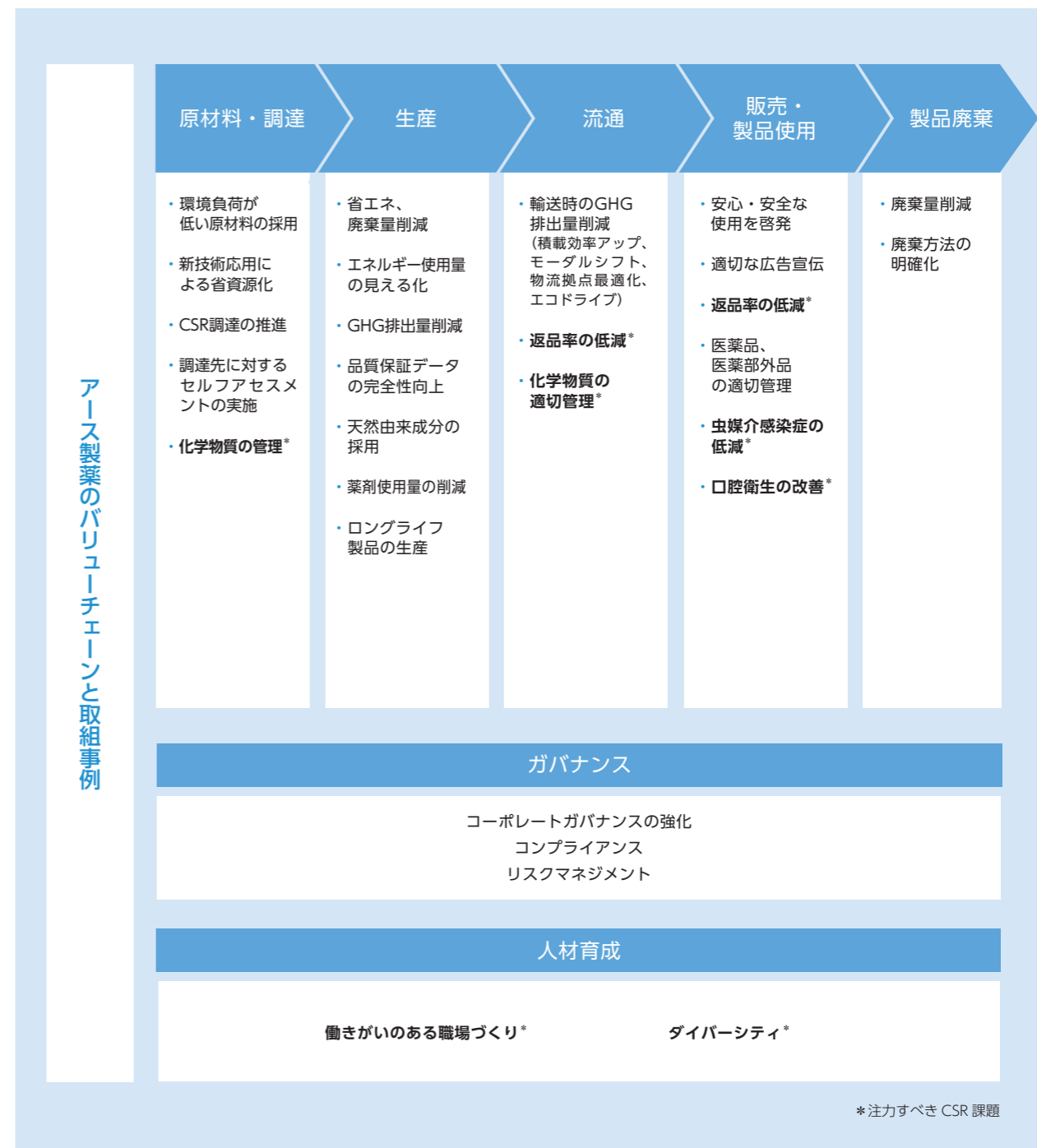
説明会(赤穂事業所)

バリューチェーンにおけるCSR活動

アース製薬はCSR活動の推進状況を把握するため、バリューチェーン上に取り組んでいる活動をマッピングしました。マッピングをすることにより、注力すべきCSR課題が浮き上がり、今年度はそれらをアース製薬の「注力すべきCSR課題」と決めました。今後は、注力課題に

ついて、PDCAサイクルを導入し、目的・目標、取組内容、達成度を確認していきたいと考えています。

なお、アース製薬が直接関わるバリューチェーンは原材料の調達からですが、その選定や製品が使われた後の廃棄までを見据えた活動を心がけています。



		中長期目標	2018年目標	2013年実績	2014年実績		
注力するCSRテーマ	虫ケア用品を通じて虫媒感染症低減への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	-	400	-		
	オーラルケア用品を通じてお口の健康への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	55,000	700	-		
	季節製品の返品削減	返品率 (虫ケア用品) [%]	2020年 6.8	7.9	11.8	10.9	
	働きがいのある仕事と職場の創出、ダイバーシティの推進	ワークライフバランス実現の取り組み	有休消化率 [%]	70以上	65	-	
			育児休業取得率 [%]	男女ともに 100	男女ともに 100	男性 0 女性 100	男性 3.8 女性 100
			育児休業からの復職率 [%]	男女ともに 100	男女ともに 100	男性 該当なし 女性 100	男性 該当なし 女性 90.9
			育児休業復職後 12ヶ月経過時点での定着率 [%]	男女ともに 100	男女ともに 100	男性 100 女性 85.7	男性 該当なし 女性 100
			介護休業取得数および休業からの復職率 [名、%]	-	-	1名 100%復帰	2名 100%復帰
	ダイバーシティ推進の取り組み	社員に占める女性の割合 [%]	50	50	39.9	44.1	
		社員採用比率 (男女別) [%]	50:50	50:50	61:39	57:43	
		女性管理職比率 [%]	2020年 10	7	1.6	2.7	
		社員平均年齢 [歳]	-	-	41.0	41.4	
		高齢者採用数 [名]	-	-	0	0	
	社員のエンゲージメント向上の取り組み	社員平均勤続年数 [年]	-	-	14.1	14.3	
		入社後3年間の離職率 [%]	-	-	10.0	3.4	
労働災害発生件数 [件]		0	0	12	8		
労働安全衛生・社員の健康の取り組み	労働災害発生率 [%]	-	-	-	-		
	労働災害強度率 [%]	-	-	-	-		
	労働災害強度率 [%]	-	-	-	-		
	メンタルヘルス休職者数 [名]	-	-	1	3		

ESG

		2020年	2019年	2018年	2017年	
環境	地球温暖化防止の取り組み	工場・オフィス等のCO ₂ 排出量 [t-CO ₂]	2020年 8,100	8,093	6,438	6,554
		物流でのCO ₂ 排出量 [t-CO ₂ /千ト/社]	2020年 0.131	0.138	0.138	0.138
	省資源への取り組み	水使用量 [千m ³]	2020年 86.5	80.5	48.6	43.5
		コピー用紙使用量 [A4換算・千枚]	-	4,648	6,857	6,107
		グリーン購入比率 [%]	-	94.0	96.7	96.1
	廃棄物削減の取り組み	廃棄物排出量 [t]	2020年 1,630	2,637	1,654	1,689
	化学物質削減の取り組み	PRTR排出量 [kg]	2020年 30kg以下を維持	-	1.1	1.6
	環境マネジメント	エコアクション 21	2020年 認証登録の維持	-	更新	-
		環境法規制の違反 [件]	-	-	0	0
	社会	お客様とともに	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反件数 [件]	0	0	0
製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反件数 [件]			0	0	0	0
マーケティング・コミュニケーションに関する違反件数 [件]			0	0	0	0
地域とともに		工場見学実施件数 [件]	-	-	131	120
		イベント・展示会来場者数 [名]	-	-	8,932	9,391
		地域清掃活動への参加者数 [名]	50	50	22	0
人権への取り組み	エコキャップの個数 [個]	22,000	22,000	-	-	
	人権に関する教育プログラム件数 [件]	1	1	1	1	
	人権に関する研修受講者数 [名]	-	-	27	14	
ガバナンス	コンプライアンス	内部通報・相談件数 [件]	-	-	10 未満	10 未満
		従業員のコンプライアンス研修 (および腐敗防止研修) 受講者数 [名]	-	-	27	16
		コンプライアンス違反件数 [件]	0	0	0	0
	情報セキュリティ	企業倫理方針の文書化	-	-	-	-
		情報システムのセキュリティに関する内部監査	-	-	-	-
		情報システムのセキュリティに関する外部監査	-	-	-	-
	リスクマネジメント	プライバシーポリシーの有無	-	-	-	-
		危機管理体制の構築	-	-	-	-
		BCM構築	-	-	-	-
		救命講習受講者数 (本社) [名]	20	20	-	31
救命講習受講者数 (赤穂) [名]		30	30	13	15	
取締役会	取締役会の開催回数 / 出席率 [回 / %]	出席率 100%	出席率 100%	12回 / 99.3%	14回 / 93.9%	
	社外取締役員数 [名]	-	-	1	1	

2015年実績	2016年実績	2017年実績	補足説明
-	478	263	・中長期目標は策定中 ・小学校を中心とした活動
-	-	205	・中長期目標は5年後の目標値 ・幼稚園・保育園を中心とした活動
12.3	10.5	8.5	
-	-	63.30	・2017年分として付与した日数に対し、2017年中に使用された日数 ・使用された総日数 / 付与した総日数分。消化 16,153日、付与 25,499日 転籍者は消化分のみ含む。 ・2017年度から算出方法を変更
男性 0 女性 100	男性 8.3 女性 100	男性 14.8 女性 100	・2017/1/1 ~ 12/31 出生が対象 ・育児休業取得: 男性 27名中4名、女性 12名中12名
男性 100 女性 100	男性 100 女性 88.2	男性 100 女性 100	2017年中に育休から復職した人 (男性6名、女性20名)、復職せずに退職した人 (男女とも0名)
男性 該当なし 女性 90	男性 100 女性 100	男性 100 女性 86.7	2016年中に育休から復職した人 (男性1名、女性15名)、復職から12ヶ月時点で退職している人 (男性0名、女性2名)
0名	1名 100%復帰	1名 100%復帰	期間: 2017/1/1 ~ 2017/12/31
41.7	40.2	39.60	対象者: 注1 1,294名中513名 2017年12月31日時点
67:33	72:28	57:43	対象者: 注1 期間: 2017/1/1 ~ 2017/12/31
4.9	5.4	4.90	対象者: 注1 306名中15名 2017年12月31日時点
40.8	42.2	42.5	対象者: 注1 2017年12月31日時点
0	2	2	期間: 2017/1/1 ~ 2017/12/31 60歳以上
49	61	63	アースで60歳を迎えたシニアサポーター、新エルダーで2017年12月31日時点に在籍者
1.9	2.2	2.2	対象者: 注1 2017年12月31日時点
13.4	14.8	14.5	対象者: 注1 2017年12月31日時点
3.2	25.0	30.8	・新卒採用の3年後の状況、2017年集計結果は2014年4月入社が対象 ・2014年新卒入社者13人のうち、2017年4月現在、9名が在籍
13	25	18	期間: 2017/1/1 ~ 2017/12/31
-	2.73	2.19	2016年より統計として管理スタート
-	0.01	0.03	2016年より統計として管理スタート
5	5	4	2017年12月31日時点
6,264	6,590	8,161	・社用車含む ・2017年はモンダミン新工場の稼働開始、徳島工場の追加 (旧アース・バイオケミカル (株) から移管) により、2016年度から増加
0.135	0.132	0.139	
42.6	48.3	77.6	・本社・工場のみ ・2017年はモンダミン新工場の稼働開始、徳島工場の追加 (旧アース・バイオケミカル (株) から移管) により、2016年度から増加
5,597	5,418	4,709	
94.3	92.9	94.1	・事務消耗品
2,774	3,254	2,701	
1.2	1.5	21.3	・燃料を除く ・2017年はモンダミン新工場の稼働開始、徳島工場の追加 (旧アース・バイオケミカル (株) から移管) により、2016年度から増加
更新	-	更新	
0	0	0	
0	0	0	
1	0	0	2015年の1件は、消費者庁から弊社商品パッケージの表示に対し、一般消費者の誤認を招くとして、不当景品類及び不当表示防止法 (以下「景品表示法」) 第6条の規定に基づく消費者庁の措置命令 (平成27年2月20日付) を受けた事案
0	0	0	
171	172	268	
11,222	11,855	13,748	アースモンダミンカップ来場者数
36	38	46	・区立千代田小学校 (東京都) と合同 ・2014年度は春、秋ともに雨天中止
-	24,811	21,689	
1	1	1	新入社員研修 + その他で実施したもの
24	28	33	上記受講者数
10 未満	10 未満	3	スピークアップ、ホットライン、苦情処理合わせて毎年10件未満
26	32	38	・毎年新入社員研修で実施。新入社員のほか、中途採用も受講。 ・2015年までは行動指針研修として実施
1	0	0	・コンプライアンス委員会がコンプライアンス違反と認めた件数 ・2015年度の違反件数は、上記「製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反件数」の内容と同一
			行動指針の改訂中、内部統制基本システム、危機管理基本方針適宜改訂
			定期的な内部監査を行っており、2017年以降も適切に運営
			ISO/IEC27001 (情報セキュリティマネジメントシステム) の認証を経年で取得
			定期的なプライバシーポリシーの浸透活動
			当社および国内子会社で構成する危機管理委員会を定期的に開催
			アース製薬 BCP マニュアルを制定し、定期的な見直し改善を実施
14	18	20	
35	33	27	今後も救命講習会を継続的に実施
12回 / 97.7%	12回 / 98.8%	15回 / 95.4%	
1	1	2	

環境マネジメント

環境宣言



私たちアース製薬は「生命と暮らしに寄り添い、地球と共生」を基本理念に、あらゆる事業活動に対し、自ら積極的に地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献します。

環境基本方針

アース製薬は2007年に定めた環境基本方針に則って環境に配慮した事業活動を行っています。

1. 環境保全に関する法規制・取り決め事項・自主基準を遵守する。
2. 環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。
3. 省資源・省エネルギーを推進する。
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進する。
5. すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓蒙を行う。
6. 地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。
7. 環境保全に関する情報開示を積極的に行う。

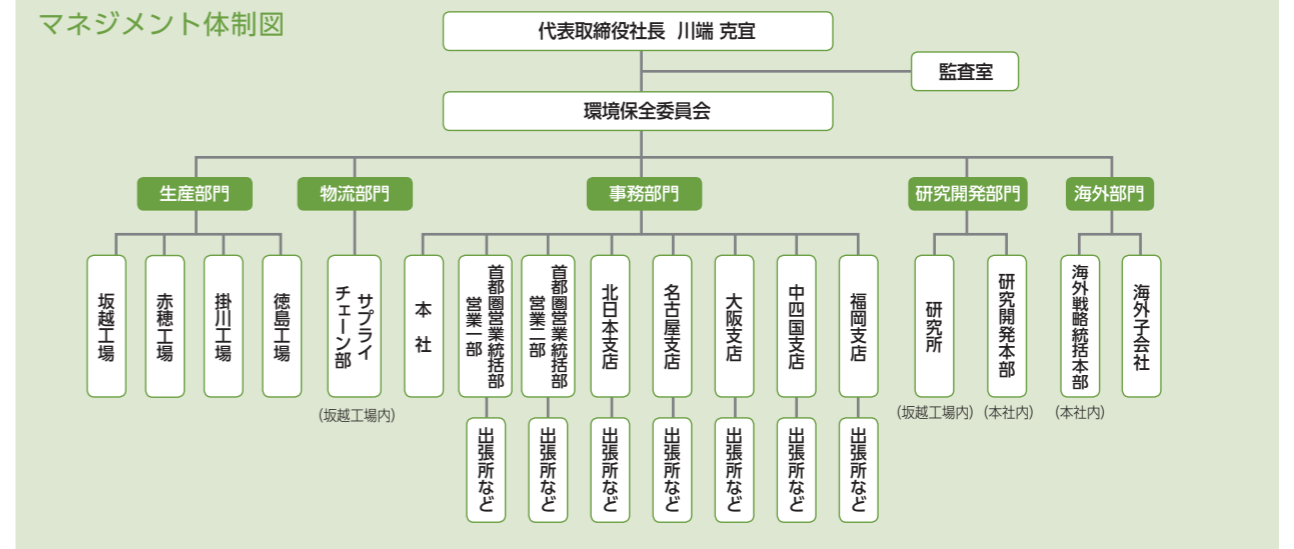
環境マネジメントシステム

アース製薬では、2007年5月に環境保全に関する全社的な組織を構築し、環境保全の取り組みを開始しました。その取り組みを強化、継続するため2009年1月に本社・工場で環境省策定の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証登録を受け、2010年4月には国内全事業所に拡大しました。また、当社の新たな事業所である徳島工場(2017年7月 旧アース・バイオケミカル(株)から移管)も2018年度より取り組みを開始し、現在、認証登録の準備中です。

このようにマネジメントシステムを運用することで、効果的な取り組みと活動の定着を図っています。



マネジメント体制図



環境教育

「環境基本方針」に沿って社員一人ひとりが高い意識を持って活動できるよう、全社員を対象に環境教育を行っています。また、各職場での取り組みをより一層推進するため、各部署の責任者、担当者を対象とした啓発も実施しています。今後も担当や役割に応じた教育を拡充していきたいと考えています。

内部監査

本社・工場・支店などを対象に毎年、環境内部監査を実施しています。監査ではチェックリストに基づき、取り組みを評価し、さらに相談や意見も受け付けながら、改善につなげています。今後一層、監査員の育成と監査の実効性の向上を図り、環境マネジメント体制を強化していきます。

法令遵守

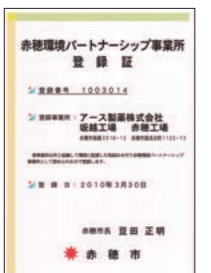
事業活動を行う上で対象となる環境関連法規制は数多くあり、定期的に法令遵守評価を行っています。2017年度も違反や関係当局からの指摘はなく、過去10年以上ありません。しかし、法令遵守は最低限の義務であり、常にそれ以上の状態を維持できるよう、社員教育やリスクの把握および対策を行っています。

アースグループ内での連携

アースグループ各社の環境保全の取り組みは「アースグループ事務局会議」を通じて情報交換を行ってきました。2017年にはグループ間の連携強化と工場の専門的な活動推進のため、実務担当者などによる「アースグループ環境会議」を立ち上げました。今後、省エネルギーや廃棄物削減などについて話し合いながら、具体的な活動につなげていく予定です。

地域社会と連携した環境への取り組み

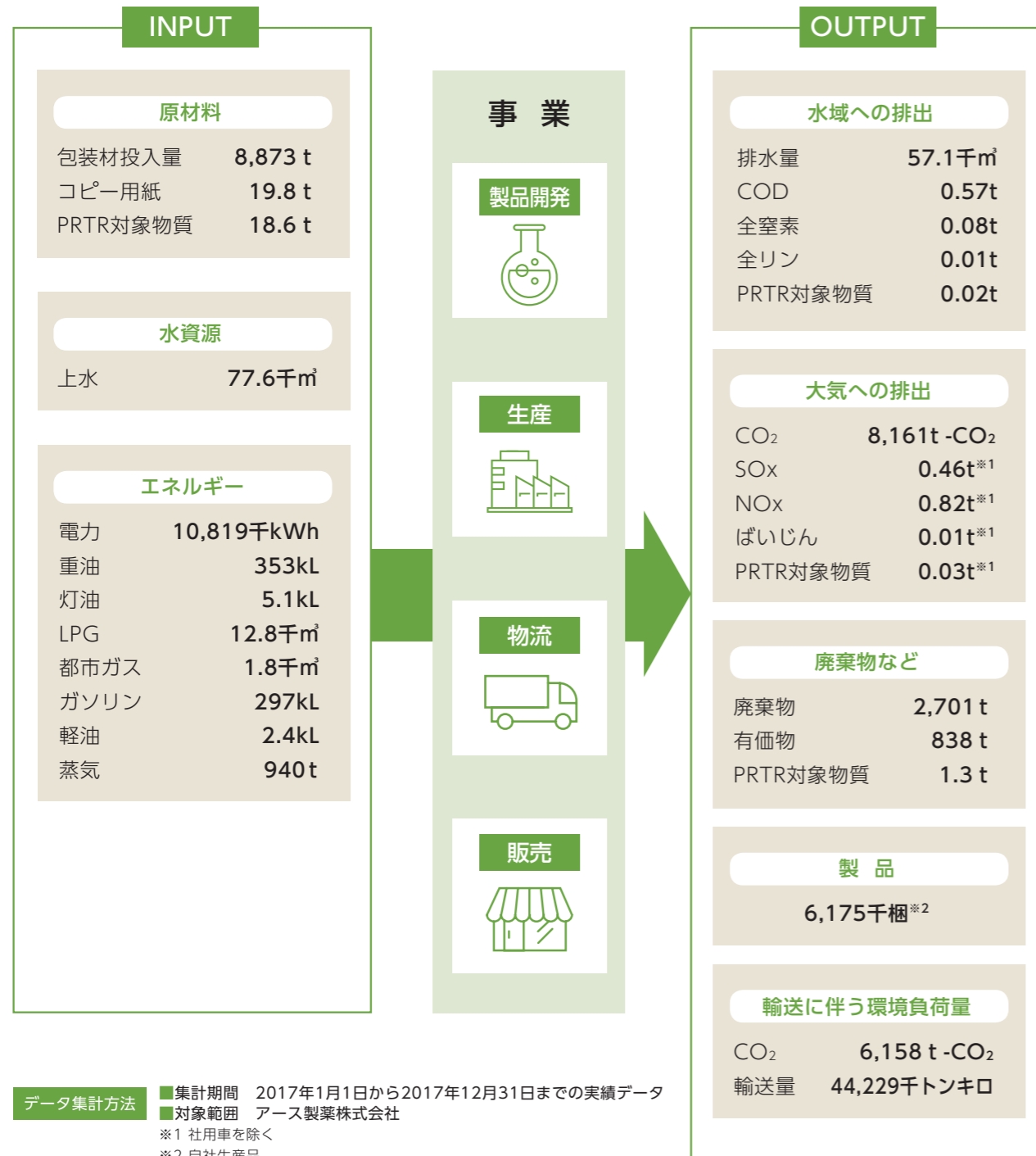
アース製薬の主力工場である坂越工場、赤穂工場、そして研究所(坂越工場内)はいずれも兵庫県赤穂市に立地しています。赤穂市とは「環境保全協定」を締結し、排水などの基準の遵守、履行状況の報告を行っています。また「赤穂環境パートナーシップ事業所」に登録し、赤穂市と協働で、温室効果ガスなどの環境負荷低減に取り組んでいます。さらに、赤穂市内の企業、赤穂商工会議所で構成する「赤穂環境保全協議会」にも加盟し、会員企業と連携した環境保全活動も実施しています。このように地域と連携しながら地元の環境保全に取り組んでいます。



環境負荷の低減

事業における環境負荷

アース製薬では、事業活動における原材料やエネルギー等の資源（インプット）と、その活動で生じる製品や環境負荷（アウトプット）を、事業活動全体を通じて定量的に把握し、削減に取り組むとともに適正管理に努めています。



データ集計方法 ■集計期間 2017年1月1日から2017年12月31日までの実績データ
 ■対象範囲 アース製薬株式会社
 ※1 社用車を除く
 ※2 自社生産品

バリューチェーンを通じた取り組み

製品開発における取り組み

容器や包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、詰め替え製品は、原材料の省資源化や家庭のごみ削減になると同時に、輸送段階でも省エネルギーやCO₂排出量の削減につながります。当社はこのような、製品のライフサイクル全体の環境負荷を意識しながら、3R「リデュース（減量化）、リユース（再利用）、リサイクル（再利用）」の視点で環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。

また、天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品も拡充しています。

生産における取り組み

工場では、省エネルギー、廃棄物削減、節水などの環境活動も、生産現場のムダを取り除く「カイゼン提案活動」の一環だと認識しながら長年取り組んでいます。また、薬剤などの化学物質に関しては、取扱量・製品含有量などの収支管理、作業者に対する危険性や有害性の安全性情報の周知など徹底管理を行っています。さらに、安心・安全な製品づくりにつなげるために、化学物質などの漏えいなど万一の事故を想定した訓練も工場周辺地域と連携しながら実施しています。



販売における取り組み

社有車では、ハイブリッド車など低燃費・低排出ガス車を採用しながら、営業活動で車を運転する際のエコドライブや、効率的なルート選択などの指導を行い、CO₂排出量の削減に努めています。また、季節製品の返品は廃棄物になることから、代理店様・小売業様と連携し、適正な需要予測に基づいた適切な製品導入と売り場の提案を行っています。

物流における取り組み

輸送時のCO₂排出量を削減するため、物流の委託会社と連携して、輸送効率の向上を図っています。積載効率のアップやモーダルシフトの拡大、物流拠点の最適化など、今後も、より効率的な物流に取り組めます。

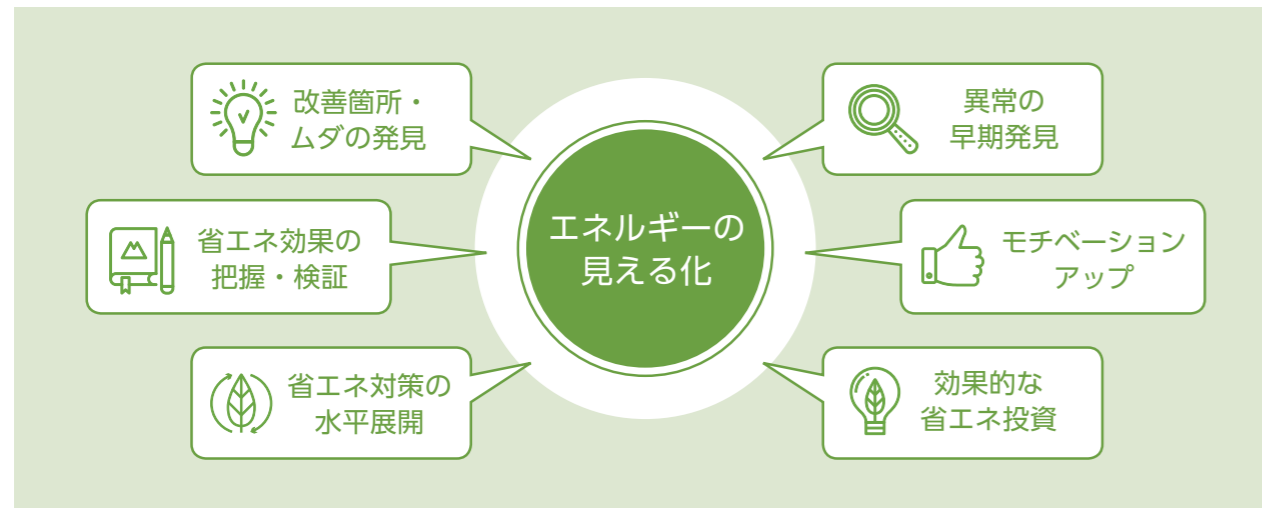
環境負荷の低減

エネルギーの見える化

エネルギーの見える化で効率的な省エネを実現

アース製薬が使用するエネルギーの大半は工場・研究所で使用しています。その使用状況を詳しく把握することで、効率的、効果的な省エネルギー活動が実施できると考え、2013年から2016年にかけて坂越工場・赤穂工場・掛川工場・研究所において、電力使用状況など

の「見える化」を図りました。また、当社の新たな工場である徳島工場への導入も検討中です。各部署で実施した省エネ改善は毎月「省エネ推進委員会」で報告、情報共有することで関連部署にも展開し、相乗効果を上げています。



TOPICS

モンダミン工場の「見える化」

原料やボトル・キャップなどの入荷と製品の出荷を行う自動倉庫(図1)、調合設備(図2)および充填・包装設備(図3)を生産管理システムで一元に管理することで下記の「見える化」を実施しました。

- ① 入出庫管理
- ② 調合時の液温・攪拌などのトレンドデータをリアルタイムで管理・保管
- ③ 充填量の全数確認
- ④ キャップ巻締めトルクの全数確認
- ⑤ 不良発生時のトレーサビリティ
- ⑥ 設備のトラブル・故障をリアルタイムで警告
- ⑦ 設備の部品交換などメンテナンス情報を表示

また、クリーンルームの温度・湿度・差圧についてもリアルタイムで計測し、ネットワーク上で閲覧できるようにしています。(図4)

(図1) 自動倉庫



(図2) 調合設備



(図3) 充填・包装設備

(図4) 温度・湿度・差圧表示



環境に配慮した製品の開発

取り組みの背景

アース製薬では、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を意識した、3R「リデュース(減量化)、リユース(再使用)、リサイクル(再利用)」の視点で製品開発に取り組んでいます。

容器、包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、詰め替え製品は、省資源や家庭のごみ削減

減になると同時に、輸送効率も向上し、省エネルギーやCO₂排出量の削減にもつながります。また、天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品の拡充も図っています。

当社では今後も、お客様のニーズと環境への配慮を両立させたものづくりに取り組んでいきます。

環境に配慮したものづくりと製品

設計 3Rの視点での製品づくり

容器を頻りに廃棄し、交換しなくても済むようにすることが、お客様の利便性の向上と環境配慮につながると考えています。

独自の研究を重ね、サイズは同じながらも持続日数を引き延ばした商品を販売しています。これによって、省資源とお客様側で出るごみを減らすことに貢献しています。

このほか、「バボナ 虫よけネットW」「アースノーマットワイド Next Plus+」など一部製品ではペットボトルなどのリサイクル樹脂を使用しています。



消費 天然由来成分の製品ラインナップを強化

自然派志向のお客様が増加する中、虫ケア用品はいち早く除虫菊エキスやハーブを使用した成分で開発を行っており、ガーデニング用品や家庭用品でも食品成分を使用した製品開発に成功しています。効果と安全性を担保し、今後もさらなる安心・安全にこだわった開発や設計に注力していきます。



研究開発 省資源化に向けた研究開発

液体蚊とりである「アースノーマット」は頻りに交換しなくてもいいことが、利便性の向上と環境配慮につながると考えています。また、定量噴射方式とマイクロ粒子化技術を応用した「おすだけノーマット」は、従来のエアゾールタイプに比べ噴射ガスを大幅に削減することを実現しました。一度の使用で長時間「害虫を退治する」技術との両立も実現し、生活空間の快適化と環境配慮を両立させています。



おすだけノーマット スプレータイプ 200日分

社会に配慮した開発

お客様目線での製品開発

「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」の経営理念のもと、徹底した「お客様目線」で消費者のニーズに沿った製品を開発しています。お客様が求めるものづくりのために、部門間の連携を密に行い、独自性の高い製品を生み出しています。さらには、お客様が「もう一度買いたい」と思ってくださいような付加価値を製品づくりにプラスして新しい価値を創造します。

アースグループ技術交流会「INSPIRE ONE EARTH」の開催

海外を含めたアースグループ各社の研究開発部門のメンバーが一堂に集まり、各社の技術情報や研究開発の内容に触れ、研究開発部門のメンバー同士での議論、交流を通じ、独創性のあるアイデアの創出と商品開発を推進することを目的に「INSPIRE ONE EARTH」を発足させました。グループ各社の技術情報と人材をクロスさせることにより、人的ネットワークや協力体制の構築の推進を図り、グループシナジーの最大化を推進させ、より一層お客様が求める製品づくりにプラスして新しい価値を創造していきます。

大容量の定量噴射エアゾール剤の開発

誰が使用しても一定の薬剤を噴霧できる「おすだけノーマット」には使用感や効果感が乏しいというお客様からのご意見がありました。そこで、従来品の5倍の噴射量の製品を開発しました。使用感、効果感が改善し、より広い部屋で使えるようになったほか、速効性も高まりました。この大容量定量噴射エアゾールの技術は世界的にも新しく、今後は、中国や東南アジア向けの製品でも応用していきます。

技術協力と共同開発

アース製薬は、害虫忌避をはじめ、各企業と共同で研究・開発を行い、商品の高付加価値化に向けたさまざまなお手伝いをさせていただきます。例えば特殊加工を施した機能糸など、当社がこれまで培ってきた技術を応用し、各企業の皆様とともに、より良い環境と製品の創造を目的とした取り組みを行っています。

大幸薬品(株)との共同開発

2016年7月に資本業務提携契約を締結した大幸薬品(株)との共同開発製品第一弾「クレベリン トイレの消臭除菌剤」を3月に発売しました。これまで消臭芳香剤市場にはなかった、二酸化塩素でニオイの原因となる菌を除去する新しい製品です。二酸化塩素は、ウレアーゼ酵素を発生させる菌を除菌することで、トイレの不快なニオイを原因から消臭します。

二酸化塩素による化学的消臭とミントの香りによるマスキング消臭でトイレの不快なニオイを消臭し、壁や床などに発生するカビの生育も抑制します。

防ダニカーペット

当社がこれまで培ってきた技術をもとに開発された「アース防ダニ」は、ダニ忌避率90%以上という優れた効果を持った防ダニ加工剤です。カーペットメーカーとの共同開発で防ダニ機能付きカーペットやラグとして製品化し、大手ホームセンターやネット通販などで販売されています。

殺虫成分は含んでおらず、化粧品にも使用される植物由来の成分で構成しているため、人体にやさしく環境にも配慮しています。また、防ダニ剤は直接肌に触れない部分に加工しているので、お子様やペットのいるご家庭でも安心してご利用いただけます。



調達における取り組み

調達方針

- アース製薬はすべてのお取引先と公正・公平で倫理的な関係性を持ち、連携を強化しながら適正な調達活動を行います。
- 環境や人権に配慮したお取引先とのパートナーシップを構築し持続的に発展していける社会の実現を目指します。

取引先へのガイドライン周知

責任ある調達活動の実現を目指し、当社のCSR調達に対する取り組みをお取引先へ理解していただくため、継続的に説明会を実施します。

※対象：当社の原材料メーカー・生産委託先
計180社(国内167社・海外13社)

またお取引先に対してCSR調達ガイドラインに基づいた自己判定を依頼し、回答の分析・検討を行い、改善すべきお取引先および項目の洗い出しと改善依頼を行います。

アースCSR調達ガイドライン

- 法令・社会規範を遵守した購買を行います。
- 安心・安全な品質要求を満たす原材料の購買を行います。
- 国内外、実績有無を問わず、公正で公平な自由競争を提供し、適正な購買を行います。
- 人権擁護、環境保全の推進など社会的責任を重視する企業との取り組みを行います。
- お取引先と信頼関係を構築し、相互成長・持続可能な取り組みを行います。

CSR調達の推進

当社の調達方針およびCSR調達ガイドラインをお取引先に理解していただくため、また、お取引先自身のCSR取り組み状況の再認識と継続的な向上のためにCSRセルフ・アセスメント質問表への回答を依頼しております。

CSRセルフ・アセスメント質問表 集計結果

項目	得点率分布				
	A (100~80点)	B (79~60点)	C (59~40点)	D (39~20点)	E (19~0点)
コーポレートガバナンス	80%	13%	7%	0%	0%
人権	60%	27%	13%	0%	0%
労働	87%	13%	0%	0%	0%
環境	87%	7%	7%	0%	0%
公正な企業活動	60%	33%	0%	7%	0%
品質・安全性	87%	13%	0%	0%	0%
情報セキュリティ	73%	27%	0%	0%	0%
サプライチェーン	47%	27%	13%	13%	0%
地域社会	67%	27%	7%	0%	0%

※当社取引額上位6割を占める原材料メーカー・生産委託先へ実施

今後はCSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果をもとに、個別面談などでお取引先と結果を共有し、取り組みが弱い部分の改善やさらなる向上に努めていきます。

また、2018年度はCSRセルフ・アセスメント質問表をすべてのお取引先へ展開していきます。

お客様目線の取り組み

安心・安全への取り組み



品質保証

原材料については、医薬品・医薬部外品・化粧品・雑品などの区分けに応じた適切な試験項目と方法に基づいて評価を行い決定しています。

製品については、法令に基づいた試験項目およびその製品機能に合わせた試験を実施しており、その中でもお客様が実際に使用される状況を想定した試験項目を設定して評価を行うなど、安心してご使用いただくための取り組みを行っています。

なお、試験データの改ざん防止など、データの完全性を担保するため、一部の試験機器では、ログイン制限・パスワード設定を行い、オーディットトレイル*設定を適用して試験を行います。試験終了後は、一連のデータ

の監査を行い、信頼性を確認した後に出荷判定を行う手順の取り組みも始めました。

また、お客様相談室に寄せられるご意見・ご要望を調査して設計部門にフィードバックすることで製品品質の向上を図っています。さらに、品質を維持するため、社内工場については、社内外の品質監査を含めた他部門によるチェックを定期的に行っており、さまざまな視点から品質に関する意見を得ています。

海外を含めた生産委託先については、定期的に品質監査を実施しており、品質改善を図ることでより緊密な協働体制・信頼関係を築き、お客様目線に基づいた品質の確保の考えを共有化して、ものづくりに生かしています。

*オーディットトレイル(監査証跡)：試験データ処理の内容・得られた結果を時系列にそのまま記録されたデータの完全性を確認します。その上で市場への出荷可否の判断をしています。このように不正の入り込む余地のないシステムを用いています。

TOPICS 工場における品質向上に向けた取り組み

工場の衛生管理については、アース環境サービス(株)の衛生管理事業の強みを生かして、各工場では防虫・防鼠のモニタリングを実施し、その報告に基づき対応しています。また、生産現場に異物を持ち込まないように、ネット帽の着用・粘着シートによる除去やその場所にふさわしい服装への更衣などさまざまな取り組みを行っています。生産ラインでは、状況に応じて社員による目視検査やカメラ検査装置を利用した異物検査を実施。金属検出器を設けたラインもあり、お客様に安心・安全でより良い製品の提供を行っています。管理者や産業医による安全衛生パトロールを定期的実施。また、社員家族向けの工場見学会を行うことで、自発的な作業環境の改善につなげています。



服装の異物除去点検

品質改善のために

お客様相談室の取り組み

お客様相談室は、お客様相談窓口寄せられるたくさんのご相談やお申し出の一件一件に対して、「迅速」に「公正」に「誠意」を持って応じることで、お客様のお困り事を一緒に解決しています。

お客様一人ひとりのお困り事を解決していきながら、その過程の中で発生する疑問やヒントを社内の関連部署に伝え、新製品の開発と既存品の品質改善に役立てるのもお客様相談室の取り組みの一つです。

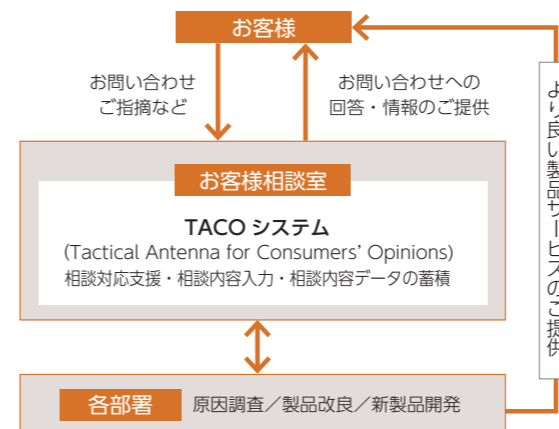
お客様の声を反映する仕組み

お客様相談室では、製品の改善やお客様の生活向上に役立てるために、日々窓口寄せられるたくさんのご相談やお申し出を社内外に伝えます。そのツールとして、アース製薬独自のお客様対応システム「TACOシステム*」を構築しています。

「TACOシステム」に蓄積されたデータをもとに、関連部署にその情報を伝え、より良い製品・サービスの提供に役立てています。また、そのデータから、お客様のより良い生活のために役立つ情報をホームページなどでお知らせします。

お伝えする情報には普遍的なものもあれば、社会の変化に寄り添うべきものもあります。お寄せいただいた情報には、昆虫の触角のように敏感に対応していきます。

* TACOシステム：Tactical Antenna for Consumers' Opinionsの略で、昆虫の触角機能のような敏感さで、お客様の声を蓄積し製品戦略に生かしたいという意味で名づけました。



お客様の声をもとにした製品

● 缶入りの蚊とり線香にも線香立てを

缶入りの線香は缶のふたをひっくり返して線香皿にできるため、線香立てを入れていませんでした。「複数箇所でするので、ぜひ缶入りのものにも線香立てを入れてほしい」というお客様からのご意見をもち、缶入りの線香にも線香立てを入れるようにしました。



● モンダミンの容器のリニューアル

「ボトルが丸みをおびていて持ちにくい」「手が濡れる洗面所で使うのに、手が滑って落ちてしまった」「手が小さい・握力が弱いので持ちにくい」などのお客様のお声をもとに、モンダミンの容器を角張った形に変更し、持ちやすい仕様になりました。併せて、キャップにも角をつけ、開栓を楽にしました。



お客様視点の販売

販売における取り組み

アース製薬では、小売業様と連携しお客様のニーズの掘り起こしと新たな市場開拓に努めています。売り場における生活者の声を開発にフィードバックし、新たな製品をお客様のもとへ届けることにより、安全、安心、快適な生活空間の創造に貢献しています。

VOICE

お客様目線で商品のことを伝える

EMALはお客様に商品をお買い上げいただくために店頭でさまざまな活動を行っています。小売業様へ商品のご案内や売り場の提案、そして一番の強みはお客様が一番近い生活者目線で展開する売り場づくりです。商品の良さや安全性を伝えることはもちろん、季節や地域に根差した独自の販促物で売り場を盛り上げます。また営業担当者と協働し企画から販促物の提案をすることで、スピードある展開が可能となり、パイヤーよりEMALの店頭実現化が高く評価されています。これ使ってみよう!とワクワクするような売り場で、多くのお客様へ商品をお届けしていきたいです。



社員とともに

アース製薬の人材について

アース製薬は「アースバリュー」で“全員参画、コミュニケーション、人がすべて”の3つを唱えているように人材を中心に考えています。価値観の多様化、テクノロジーの進展、日本国内の人口構造の変化、グローバルゼーションなど、アース製薬を取り巻く環境が激変している中、われわれの存在意義は新たな価値を生み出していくことだと考えます。そのためには、社員一人ひとりが目標を「見える化」し、向上心を持って業務に取り組むことが必要と考えています。時代変化を見据えた幅広い視野とチャレンジ精神を持って積極的に行動するよう心がけています。

これらのことを実現するため、採用、異動により人材を適材適所に配置し、頑張った社員が報われる、評価・人事制度を整備することにより、社員のやりがいを引き出します。また、OJTを含む研修制度の構築により、社員それぞれの人材力の強化に取り組んでいます。

多様な人材の活用

ダイバーシティの推進

「人がすべて」という社員共通の価値観のもと、働く仲間の人権と多様性を尊重し、個人の持つ能力や経験を尊重し、お互いを認め合い、助け合い、鍛え合っていく、働きがいのある職場づくりを推進しています。なお、多様性には、出身地、文化、年齢、経験、好み、性的指向などの違いのほか、それぞれのライフステージの違いも含んだものとして捉えています。

また、関係会社である大塚グループのダイバーシティ推進担当者が定期的集まる会議に参加し、各社の取り組みについて情報交換を行っています。

障がい者雇用の推進

工場、研究所などのバリアフリー化および障がいのある方が使用できる機器を導入し、誰もが働きやすい職場環境をつくることにより、得意な分野において能力を最大限に発揮できるようにしています。赤穂市に所在する坂越工場・赤穂工場では、地元の障がい者施設へ製造業

務の一部を委託する「施設外就労」を実施し、障がいのある方たちの「働きたい」を支援しています。

なお、アース製薬における障がいのある方たちの雇用率は2.2%と法定雇用率2.2%を遵守しています。今後は、能力を発揮できる機会をさらに提供していきたいと思えます。

高齢者雇用の推進

アース製薬の定年は60歳ですが、年齢にかかわらず働ける環境を整備し、希望者全員が65歳まで働くことができます。さらに、2016年からは能力や経験のある方については、60歳以上でも新規に雇入れを行い、その経験をいかんなく発揮してもらっています。

中途採用の拡大

今までのアース製薬にない価値観や知見を吸収し、さらなる会社の発展につながるさまざまな経験・知識を有する外部人材を獲得するため、キャリア・年齢・性別・国籍にかかわらず、多種多様な中途採用を積極的に行っています。中途入社社員は、部門責任者への登用や各部門での即戦力としてさまざまな面で活躍しています。

外国人活用の拡大

世界中の人々に必要とされる商品・サービスを提供するため、近年特に力を入れているアジア圏の人材を中心に、外国人採用を行っています。R&D部門や海外戦略部門での活用が進んでいます。また、海外技能実習制度を利用した海外現地法人社員の受け入れや、人材交流なども実施しています。

働く環境の整備

ワークライフバランスの推進

仕事と子育ての両立を図るために必要な環境の整備を進め、2012年、2015年には「くるみんマーク」を取得しました。

女性の育児休業取得率は100%を維持しており、職場復帰率についても2017年については100%となっています。育児休業期間中の一部を有給化したことにより、

男性の育児休業取得者数も徐々にではあるものの増加しています。育児勤務制度については、時短勤務や始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ制度を取り入れており、男女問わず制度の利用が進んでいます。

働き方改革の取り組み

2017年より全社レベルでのノー残業デーの実施や、22時以降の就業を原則禁止するなど、働き方改革の取り組みを始めています。2018年は、会議の効率化推進など新たな取り組みの設定や、ノー残業デーの実施を月1回から週1回に増やすことなどをきっかけに、業務の見直しを行っています。これにより、社員一人ひとりの仕事の効率化と、会社運営における生産性の向上を推進していきます。

安全衛生への取り組み

健全で安全な職場環境を実現するため、次のような委員会や部会を設置し、活動を実施しています。

- 安全衛生委員会および衛生委員会
- 安全衛生部会 ●安全運転管理活動
- コンプライアンス委員会(内部通報窓口含む)
- 環境保全委員会

メンタルヘルス

社員のメンタルヘルス対策として、年1回全事業所を対象としたストレスチェックを実施しています。また、健康管理システムを導入し、社員が自主的に自身のストレス状態や、疲労蓄積度を確認できる体制を整えています。社員が希望すれば、産業医(精神科医)による面談が受けられる体制も整備しています。

人材育成

新入社員研修

新たに社会人となる新入社員へは、ビジネスマナーはもちろんのこと、製品講義、営業研修、製造実習など、ものづくりに携わる一連の業務をすべて経験できるカリキュラムを用意しています。単に知識を頭に入れることだけが目的ではなく、この研修を通じて「働くとはどう

いうことなのか」「何のために仕事をするのか」「どうなりたいか」を考えるきっかけとしてもらいます。

部長研修、課長研修

2018年から新たなカリキュラムでの部長研修と課長研修を準備しています。それぞれ2日間を2回実施していきます。

初回の1日目は外部講師によるリーダーシップ、コミュニケーション、コーチングなどの実践手法、2日目は役員や所属長による会社方針や管理者の意義、働き方改革、コンプライアンス、行動指針などの研修を実施します。

2回目は約3カ月後のフォローアップとして、1日目は前回同様に外部講師を招き、前回の研修で洗い出した各々の職場での課題について、実行できた事やできなかった事を振り返り、発表してもらいます。2日目は働き方改革の取り組みについて職場での具体的施策をアウトプット、このほかに役員や所属長から管理者に求められる資質・能力を開発、強化する研修を実施します。

若手研修、中堅研修

2018年は、営業部員にフォーカスして研修を実施します。若手研修では入社3年目までの約20名に対し、担当企業や担当店舗でのプレゼン資料の発表会、パソコン実技の講習を営業本部と人事部の内製で行います。中堅研修では4年目から9年目までの約50名を対象に、あらためて営業の基本行動と基本姿勢、営業スキルアップを目指し、外部研修を実施します。

女性研修・ダイバーシティ研修

多様な人材、多様な働き方という考えを理解し、「さまざまな働き方」を実現するための研修として以前から実施しています。今後は「モチベーションアップ」「キャリアチャレンジ」に注力した研修を実施します。

地域との共生

社会貢献活動方針

わたしたちは「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を経営理念に、事業を通じて世界の人々に生活の質の向上を提案するとともに、社会貢献活動を積極的に推進し、健康で豊かな社会の実現を目指します。

- アース製薬グループの得意とする「生活」「衛生」を中心とした活動を通して、社会に貢献します。
- 豊かなライフスタイルの実現に向けて、「スポーツ」「文化」「社会福祉」などの活動を支援します。
- 社員一人ひとりが、自ら社会貢献活動に取り組む環境づくりを進めます。

文化活動

アース・モンダミンカップ

2012年から日本女子プロゴルフツアー「アース・モンダミンカップ」を主催しています。「お口の健康を守る」をテーマに、今後も幅広い年齢層の方々にご利用いただきたいとの思いを込めて、生涯スポーツであるゴルフのトーナメント大会名に「モンダミン」を使用しています。「アース・モンダミンカップ」には、多くの社員がスタッフとして参加し、記憶に残る、心に残る、歴史に残る大会を目指しています。



徳島ヴォルティス

四国初のJリーグチーム「徳島ヴォルティス」(元大塚製薬サッカー部)発足以来のユニフォームスポンサーとして、その活躍を全社で応援しています。



ASハリマアルビオン

女子サッカーリーグでも、チーム「ASハリマアルビオン」のスポンサーとして、スポーツの発展と地域の振興に貢献しています。



海外での活動

チャイルド・スポンサーシップ

当社が事業展開をしている東南アジアの子どもたちを国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパンのチャイルド・スポンサーシップを通じて支援しています。

この活動は支援を求める子どもたちに、必要な環境を自立するまで支援していくプログラムです。

「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」の経営理念のもと、1人でも多くの子どもたちに幸せを届けられるよう、今後も支援を継続していきます。



タイ(左)、ベトナム(右)でそれぞれ支援を受ける子どもたちの様子

中国での活動

安斯(上海)管理有限公司は、2017年7月に実施された広州日本人学校夏祭りにおいて虫ケア用品の商品協賛を行いました。また、同年11月に開催された「第2回インターナショナル楽SPOフェスター企業対抗スポーツの祭典in上海」にも協賛を行いました。安速日用化学(蘇州)有限公司は上海日本人学校中等部で毎年実施される企業訪問の訪問先の一つに指定されました。同年7月、一部生徒と先生方、計40名が来社され、日用品生産ラインの視察と工場幹部との交流会を実施。安心・安全な商品を生産する過程やそれに至る苦労話に熱心に耳を傾ける子どもたちの姿が印象的でした。

2017年は日中国交正常化から45周年という節目の年になり、日中友好と企業の福利厚生や交流を目的にさまざまなスポーツに参加することで相互理解を深めるイベントになりました。今後もこのような機会を通じて中国での社会貢献活動に参加していきます。



楽 SPO フェスタの様子

タイでの活動

Earth (Thailand) Co., Ltd.はタイ国内で企業活動を行っている在タイ大塚グループ各社とともに毎年、現地に根付いた社会貢献活動を続けています。

2017年12月には、タイ西部カンチャナブリ県の「ワット パトゥムトゥーイ 小中高等学校」にて、校内食堂の改装工事費寄贈に併せ、蚊が媒介する感染症から子どもたちを守るため、自社製品の「蚊とり線香」「アースエアゾール」「虫よけ剤」を寄贈。加えて、スポーツによる子どもたちの健康づくりを応援するためにサッカーボール、バレーボールなどのスポーツ用品の寄贈も行いました。

「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」アース製薬の経営理念の通り、当地タイの子どもたちが健康で安全な暮らしができるようEarth (Thailand) はこれからも現地の人々の生命と暮らしに寄り添う支援を続けていきます。

ベトナムでの活動

Earth Corporation Vietnamは、2017年5月にアースグループの一員になりました。同社は以前よりテト(ベトナム旧正月)の時期に、ハンセン病患者療養所や孤児院に製品の寄付や、貧困層向け住宅の建設費寄付などを行っていました。グループの一員になってからも中秋節に孤児院に寄付をしたり、工場所在地のビンズオン省の公安内青年組合とともに貧困者自立支援活動を行ったりしています。今後はよりアースらしさを出しながら、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいきます。

その他主な活動一覧

概要	実施内容	実施時期
ウェブ	ダニ対策啓発サイト、「Danny」を開設	4月
ウェブ	「蚊に刺され指数」コンテンツの提供を開始	4月
イベント	アウトドアアジアジャパン 2017 東京にブース出展	4月
セミナー	メディア関係者を対象にしたセミナー「アース製薬 ダニ対策セミナー」を開催	5月
ウェブ	学研イノベーションとのコラボレーション企画 小学校出前授業「アース虫の学校」をウェブ公開	5月
イベント	全日本私立幼稚園連合会・全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・全日本私立幼稚園PTA 連合会提唱の「こどもがまんなか PROJECT」に協賛。蚊予防についての啓発活動。ノーマット無償配布	6月
被災地支援	九州北部豪雨に製品提供 洗口液(モンダミン センシティブ)、芳香剤(スッキーリ! トイレ用)、虫ケア用品(アースノーマット電池式、アースジェット)	7月
啓発活動	ヒアリ駆除試験映像公開	7月
啓発活動	主婦 600 人に「ダニの知識と対策に関する調査」を実施。その結果をウェブで公開	7月
スポーツ振興	一般社団法人日本女子プロゴルフ協会主催、第12回LPGA全日本小学生ゴルフトーナメント in しらかわ 協力	10月
イベント	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 オフィシャルパートナーシップ契約を締結	10月
イベント	上天草へな健康フェアにブース出展、ミニ市民講座開催(熊本県上天草市)	11月
イベント	モンダミンキッズたいそう(子ども向け虫歯予防啓発活動 全国の保育所などで計6回開催)	—

コンプライアンス

コンプライアンス体制

アース製薬は、高い倫理観を持ち、法令等を遵守するため、当社における行動指針などを冊子にまとめて解説した「アース製薬行動指針及び行動指針解説書」を役員および社員(契約社員、派遣社員およびパートタイム社員を含む)全員に対して配布するとともに、社内イントラネットに掲示して会社が重きを置いていることを周知しています。

また、法務部門を担当する取締役を委員長として、組織横断的なコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス上の課題や情報を共有し、全社的に活動を推進しています。2017年度は委員会を2度開催いたしました。コンプライアンス委員会では毎月2回、第一法規(株)発行のコンプライアンス関連の情報誌「こんぶらサポート便」を社内イントラネットに掲示し、また、他社のコンプライアンス違反事件などの報道後にはコンプライアンス委員会が作成する「コンプラメモ」を掲示して違反の原因と対策を示し、コンプライアンス意識の向上に努めています。

「コンプラメモ」はおおむね年5回ほど掲示しています。

アース製薬行動指針及び行動指針解説書

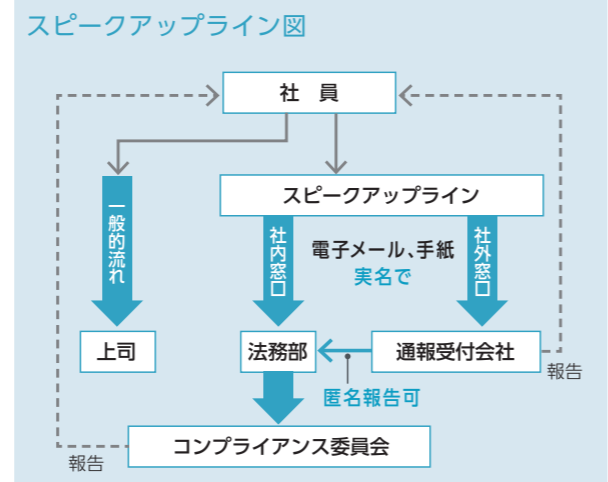
アース製薬行動指針は、アース製薬の役員および社員一人ひとりが、企業倫理にのっとった公正な判断をするための尺度を示したものであり、それを実践するためのものです。お客様、社会、市場、株主、働く仲間を5つのテーマとし、それぞれ、「お客様」に対しては、良質で役に立つ製品・サービスを提供することで、常に信頼されるブランドであり続けること、「社会」に対しては、ルールを遵守し、常に公正で誠意ある行動を心がけること、「市場」に対しては、自由な競争を妨げることなく、良質な製品を提供すること、「株主」に対しては正確な情報を迅速に開示するとともに、会社の資産を不正な目的に使用しないこと、「働く仲間」に対してはコミュニケーションを大事にし、全員参画で社会とともに発展し成長することを定めています。また、行動指針解説書においては、行動指針を実践するための遵守すべき法令や事例

を記載しています。本指針の改廃は取締役会の承認を得るものとし、行動指針を受け取ったときには、役員・社員は誓約書に署名し、コンプライアンス委員会に提出します。

内部通報制度概要

アース製薬は、内部通報窓口として「スピークアップライン」を社内と社外の2カ所に設置し、業務に関する問い合わせやルール違反の恐れがあることをコンプライアンス委員会に通報できる体制を取っています。社外窓口から社内窓口への通報は匿名でも可能です。退職後1年以内の方も利用できます。また、問い合わせや報告をした人が、社内でも不利益な処分を受けることがないように保護します。この保護は継続的に実施し、コンプライアンス委員会が監視します。2017年度の通報件数は3件ありました。

このほかにも、契約社員用の「ホットライン」や本社、支店および工場において苦情処理委員を任命し、育児やハラスメントなどの相談に応じる体制を取っています。



第三者意見

<評価できること>

本レポートは「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を経営理念とするアース製薬の多角的な活動を、環境・社会・ガバナンスの軸にもとづき報告しています。今年より、自社が注力するCSRテーマとSDGs(持続可能な開発目標)との関わりが示され、グローバルスタンダードに沿った報告書となりました。また、写真やステークホルダーの生の声が数多く掲載されており、CSRコミュニケーションの面でも優れた報告書となっている点が特徴です。

トップメッセージにあるように、アース製薬にとってCSRは「事業のど真ん中」に位置しています。同社の主力事業である虫ケア用品や口腔衛生用品は、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGsの17の目標のうち、3つめの目標である「すべての人に健康と福祉を」と直接的に関わっています。同社が力を注ぐ「虫ケア用品を通じた虫媒感染症撲滅への貢献」や「オーラルケア普及を通じた口腔衛生への貢献」を中心としたCSRは、真の「社会課題の解決」と言えるでしょう。同社では、この点をしっかりと認識し、衛生環境が十分に整っていないASEAN地域や中国へと事業を積極的に展開しており、また、この2つの貢献を自社が注力するCSRテーマとして掲げています。このことから、アース製薬は本業を通じたCSR意識が高い企業であると評価できます。

今回のレポートで最も高く評価したいのは、CSRマネジメントデータが大幅に拡充されたことです。昨年の第三者意見では、アース製薬の各CSR活動について取り組み内容や目標値などを示したアクションプランの掲載を検討していたと述べましたが、今年は52の活動項目についてKPI(主要業績評価指標)、2013～2017年度の実数値、2018年度目標値、中長期目標値などが設定・公開されました。CSR活動を適正かつ継続的に改善していくためにはPDCAサイクルの導入が不可欠です。今回のCSR推進のための整備を高く評価したいと思います。

「特集1」では感染症予防に向けた虫ケア用品の正しい知識と啓発、「特集2」では返品の削減を取り上げています。ここで注目すべきは、返品の削減についてです。2017年のアース製薬の虫ケア用品の返品率は前期比2.0ポイント減の

第三者意見を受けて

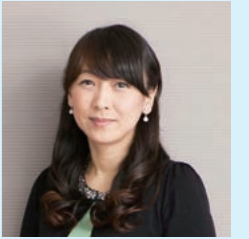
このCSR報告書2018の発刊にあたり、立教大学経営学部の高岡美佳教授より貴重なご意見をいただき、心より御礼申し上げます。

当社のCSR報告書は、環境報告書からステップアップした形で昨年初めて発刊いたしました。2年目となる当報告書の作成に当たっては、昨年、高岡教授よりご要望いただいた点を踏まえて、CSRマネジメントデータの項目の拡充や、取り組むべきSDGsとの関わりを示すなど、本業を通じ

たCSR活動の取り組みを盛り込みました。高岡教授には取り組んだ内容を高く評価いただき、大変励みになりました。

一方で、今回ご要望いただいた、CSRマネジメントデータの対象範囲を連結対象企業まで広げることや、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガスの開示については課題として真摯に受け止め、取り組みへの検討を進めてまいります。

立教大学経営学部教授
高岡 美佳氏



8.5%と過去最低を記録しました。返品が当たり前となっている業界の商慣行を変えるのは簡単なことではありませんが、同社は今年、小売店や代理店と協力して改革に着手しました。返品の削減はコスト削減だけでなく環境負荷の軽減につながる重要な取り組みですので、引き続き、業界をリードしていただきたいと思います。

その他、今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナーへの就任、CSR報告書を読む会などを通じた社員のCSR理解の促進、主要取引先へのCSRセルフ・アセスメント質問表配布・集計によるCSR調達の推進、会議効率化を通じた働き方改革など、新しい取り組みが多く見られました。現在のように変化のスピードが早い時代には、既成概念にとらわれることなく、自社が社会的責任を果たすために何をすれば良いかを考え続けなくてはなりません。アース製薬らしさを追求しつつ、社会の課題を見つけ出し、アジアにおけるリーディングカンパニーとして業界を牽引していただきたいと思います。

<要望したいこと>

次年度は、CSRマネジメントデータの対象範囲を、アース製薬単体からグループ企業・海外の連結対象企業へと広げていただきたいと思います。グローバル企業体としてのCSR課題の発見につながる可能性があります。

また、昨年も述べましたが、アース製薬は、B to C製品を多く販売する企業ですので、企業自身が直接的に排出した温室効果ガス(SCOPE1)や間接的に排出した温室効果ガス(SCOPE2)に加えて、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガス(SCOPE3)、つまり製品がお客様の手に渡ってから廃棄されるまでの排出量について、開示することが望ましいと考えます。事例でも構いませんので開示を検討してはいかがでしょうか。



取締役 上席執行役員
経営統括部統括部長(兼)
ニューチャネル事業部
事業部長
三枚堂 正悟